

## Y03a ひので衛星といっしょに太陽を観測しよう！ 2010-2022

矢治健太郎 (核融合科学研究所), 下条圭美 (国立天文台), 時政典孝 (佐用町役場), 鈴木大輔 (川口市立科学館)

太陽観測衛星「ひので」の観測データは研究だけでなく、教育普及目的の活用にも奨励されている。「ひので衛星といっしょに太陽を観測しよう！」(以下、ひのでといっしょ)は、中高生や公開天文台・科学館との共同観測キャンペーンで、[HOP173] EPO campaign observation mainly for high school student として提案され、2010年以來、毎年実施してきた。

「ひのでといっしょ」は、2010年9月1日に始まり、昨年で13年目を迎えた。この間、観測提案16回、観測日数141日、参加校・施設37、発表数21(2022年まで)である。日頃太陽観測をしている中高生たちが、ひのでの観測データに関心を持ち、自分たちの太陽観測データと比較することを促進することを目的としている。参加した学校からは観測成果を都道府県の発表会や天文学会のジュニアセッションで発表している。2016年には太陽フレアの観測に成功した高校も現れた。「ひのでといっしょ」は、非常にユニークな取り組みとして、国内外から高く評価され、研究者からも活動をエンカレッジされている。2016年のひので10周年記念誌にもこの活動が報告された。ただし、2020年及び2021年はコロナウィルス過で、太陽の屋外観測が難しいことから、ひのを含めた太陽観測のアーカイブデータの活用を推奨したり、オンラインによる観測説明会を実施した。2022年は、「ひのでといっしょのヒント」という Tips を連絡用 ML で定期的に発信し、観測のアドバイスをを行った。

本講演ではこれまでの「ひのでといっしょ」の実施状況の軌跡を振り返る。また、SOLAR-Cなどの太陽将来計画ミッションにおいて、このような参加型の教育普及活動は今後も重要であると考えている。